

別記
第3号様式

京都府教育委員会教育長 様

令和 8年 3月 3日

コミュニティ名 NEO — NANTAN Empower One —
代表者所属名 南丹市立園部小学校
代表者職・氏名 教諭・中川敬太

京都府若手教職員学び合いのコミュニティ育成支援事業報告書

次のとおり報告します。

1 コミュニティ名

NEO — NANTAN Empower One —

2 研究テーマ

ICT活用による「主体的・対話的で深い学び」の実現と個別最適な学びの追求

3 研究の目的

本研究チームでは、ICT活用による「主体的・対話的で深い学び」の具現化と、個別最適な学びの充実を目指した。その中核として、教員同士が実践を持ち寄り、協働的な研究を進めてきた。ICTを単なる技能や手法として扱うのではなく、授業の在り方そのものを見直す手段として位置づけ、児童生徒一人ひとりに応じた学びの実現と、教員の授業力向上を目的とした。

4 研究の成果と課題

1. 全体的な成果

実践を「ひらく」「とどく」「つなぐ」の3つの視点で整理したことで、授業改善の方向性が具体化された。また、Teamsを用いた情報共有により、一人の実践が他の教員の挑戦を促すといった「学びの循環」が生まれた。

2. 各グループにおける具体的な成果

「ひらく」グループ（児童生徒の活用）：

・シンキングツールやデジタルOPPシートの活用により、文章構成が苦手な児

童でも思考を可視化・整理し、段階的に学習に取り組めるようになった。

- ・学習活動を「収集・整理・発信・省察」の4段階に整理したことで、生徒が目的意識を持ってツールを選択・活用できるようになった。
- ・生徒の気づきや思考のプロセスが客観的なデータとして残るため、指導と評価を一体的に行う上で有効であった。

「とどく」グループ（個別最適な活用）：

- ・AIドリル（すらら等）の活用により、個々の習熟度に応じた問題演習が可能となり、学力の伸びが確認された。
- ・体育の長距離走や探究学習において、児童生徒が自ら目標を設定し、ICTで進度や記録をリアルタイムに把握することで、学習意欲と自己調整の意識が高まった。

「つなぐ」グループ（教師が活用し、人・地域・学びをつなぐ）：

- ・オンライン通話により他校や地域の専門家と繋がることで、教室内に閉じない「相手意識」を持った意見交流や発表が可能となった。
- ・体験学習に先駆けて地域施設をオンライン見学するなど、空間的制約を取り払い、実際の体験へスムーズに接続させる効果が見られた。

3. 今後の授業改善に向けた課題

組織的な実践の普及と格差の解消：

- ・取り組みが意欲的な教員個人の実践に留まっており、学校単位での組織的な定着や、教員間の活用スキルの格差を埋めるための支援体制が求められる。
- ・低学年における文字入力やカメラ操作などの基礎的なスキルの習得状況に差があり、発達段階に応じた体系的な指導が必要である。

「学び方」の質の向上と自己調整力の育成：

- ・すべての児童生徒が自らの学習状況を客観的に分析してツールを活用できているわけではなく、自律的に学習方略を選択できる「自己調整力」を高めるためのさらなる実践が課題である。
- ・「個別最適な学び」が孤立しないよう、「協働的な学び」との一体的な充実を図る単元設計の工夫が求められる。

情報モラル指導と運用の効率化：

- ・児童生徒が創造的なアウトプットを行う一方で、情報モラルの視点を持った継続的な指導の徹底が必要である。
- ・学校間連携における授業時間の調整や機器設営の負担が大きく、より簡略で持続可能な運用の仕組みづくりが必要である。

デジタルとアナログの適切な使い分け：
 ・身体的負担（目の疲れ等）や端末の使いにくさを感じる児童生徒も存在しており、紙媒体とのメリット・デメリットを整理した上での最適な使い分けが重要である。

5 研究成果の波及方法

オンライン会議システムを活用した実践交流を行い、校種や学校を越えた対話の場を設けることで、多角的な視点から授業改善を図った。また、実践記録や成果を事例として整理・共有し、他校の教員が参考にできる形で発信することで、南丹市全体のICT活用力および指導力向上につなげることができた。今後も、完成形を示すのではなく、実践が次の問いを生み、学びが循環していく形での波及を目指していく。

6 研究（活動）実績*

年月	研究（活動）内容（具体的に記載）	活動場所
令和7年5月	・コミュニティメンバー確定 ・研究テーマおよび部会構成の検討	南丹市役所
5月～7月	・各部会におけるICT活用実践	各校
8月	・中間報告会	オンライン
9月～12月	・ICT活用実践 実践報告スライド作成	各校
令和8年1月	・実践報告会 ・学び合いコミュニティ成果報告会	オンライン 京都府総合教育センター
3月	・まとめの会	南丹市役所

7 予算執行状況

- (1) 旅費は、旅費執行状況報告書に記載のとおり
- (2) 図書については、受領書のとおり

8 他校へ勧めたい実践又は他校へ呼びかけたい共同研究（できるだけ具体的に）

テーマ	ICTを活用した授業改善と個別最適な学びの実践
育てたい資質能力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った学び方を選び、学びを調整していく力 ・他者との対話や協働を通して、考えを深め広げる力 ・ICTを、学びを「ひらく・とどける・つなぐ」手段として活用する力

<p>実践又は研究の 具体的内容</p>	<p>本研究では、教員一人ひとりの授業実践を起点とし、ICTを活用した授業改善について協働的に研究を進めた。</p> <p>具体的には、授業のねらいや児童生徒の実態に応じてICTを位置づけ、学びを「ひらく・とどく・つなぐ」という三つの視点から実践を整理・共有した。</p> <p>「ひらく」の視点では、児童生徒がICTツールを活用し、自ら情報を集めたり考えを表現したりする活動を取り入れ、学びの広がりを生む授業づくりを行った。</p> <p>「とどく」の視点では、習熟度や学習特性に応じて学び方を選択できるよう、複数の教材やICTツールを組み合わせ、一人ひとりに合った学びが成立する授業構成を検討・実践した。</p> <p>「つなぐ」の視点では、オンライン通話等を活用し、児童生徒同士や学校・地域を越えた交流を行うことで、多様な考えに触れ、学びを深める実践を行った。</p> <p>これらの実践については、Teams等のICT基盤を活用して実践記録や授業資料を共有し、定期的なオンライン交流会において成果や課題を振り返った。</p> <p>その過程で、実践の成果だけでなく試行錯誤の過程を言語化し合うことで、各校が自校の実態に応じて改善を図れるような研究の在り方を重視した。</p>
--------------------------	---